

中学年 実践発表(書くこと)

# 生きてはたらく言語能力を高める 国語科学習

～目的を明確にもって自分の考えが伝わるように書く力～

令和7年8月20日

# ■テーマ設定の理由

## 【児童の実態】

- 自分の想像したことを進んで書くことができる。
- 目的をもたないまま書き進めている。
- 読み手を意識せず自分勝手に論を進めている。



## 【願う姿】

児童が目的を明確にもち、読み手に自分の考えが正確に伝わることを意識して書く力を高める姿。

## ■研究仮説

書いた作品を読む相手と、何のために書くのかという目的を明確にすることで、**自分の伝えたい内容を豊かに思い描く**ことができ、自分の書いた内容が**読み手に伝わるかを意識して**、書いたものを何度も読み返し、より伝わるように書こうとすることができる。

## ■研究内容

- (1) 書く目的を明確にし、効果的に言語能力を育成するための言語活動の設定
- (2) ①児童が単位時間の見通しをもつことができる導入の工夫  
②対話を通して考え続けるための指導・援助の工夫

## ■研究実践

第3学年 書き表し方をくふうして、物語を書こう  
「たから島のぼうけん」

### 指導目標

◎読み手をときどきはらはらせる場面を明確にし、その場面にあった登場人物の様子や気持ちを表す言葉やセリフ、情景描写を書き加えるなどして、書き表し方を工夫することができる。（思B(1)ウ）

## ■(1)書く目的を明確にし、効果的に言語能力を育成するための言語活動の設定

### 魅力ある言語活動の設定

隣のクラスのみんなをドキドキはらはらさせる ぼうけん物語をつくる！



相手意識・・・隣のクラスのみんな  
目的意識・・・「ドキドキはらはらさせる」  
が明確になる。

となりのクラスのみんなをドキドキ  
はらはらさせるぼうけん物語をつくらう。

# 単元の終末の姿のイメージを明確に持つ

私もこんな風に、読み手を  
「ドキドキはらはらさせる」  
物語を書きたい！

[illegible]

# ■(1)書く目的を明確にし、効果的に言語能力を育成するための言語活動の設定

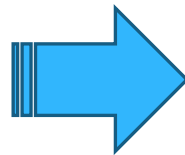
効果的に言語能力を育成できる

読み手を「ドキドキはらはらさせる」には、主人公のどんな様子を描くとよいのだろうか？



物語に描く場面の様子を  
豊かに思い描くことに必然が生まれた！

(例) ルルは  
ワニをたおしました。



(例) ルルは  
ワニのしっぽを  
木の棒で思いっきりたた  
いてたおしました。



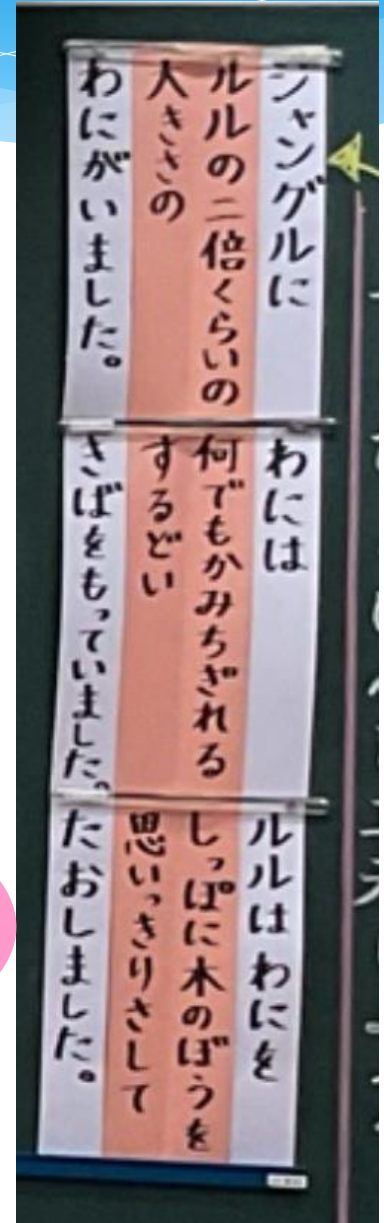
## ■(2)①児童が単位時間の見通しをもつことができる 導入の工夫

本時の見通しをもてる教師のモデル文

教師のモデル文の  
ビフォーアフターを示す。



より読み手を  
「ドキドキはらはらさせる」ために  
本時は、場面の様子を  
よりくわしく描こう！





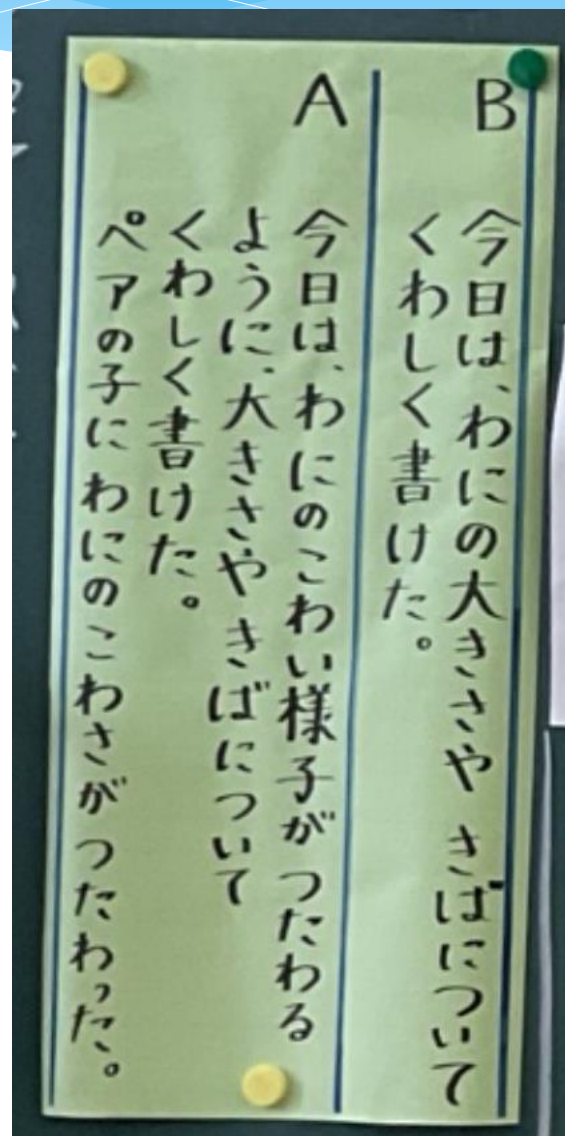
## ■(2)①児童が単位時間の見通しをもつことができる 導入の工夫

本時の見通しをもてる、  
まとめのモデル提示

どんなまとめが書けるとよいか  
授業の初めに示す。



本時は、  
ペアの子との対話で場面の様子が  
くわしく伝わるか確かめれば良い  
という学び方が分かる！



## ■(2)②対話を通して考え続けるための 指導・援助の工夫

### 対話モデルを示す

この単元では、どんな対話をすると考えが深まるのかを、第3時に対話モデル動画で示した。

#### 対話レベル★

- ペアで一緒に、声に出して文章を読む。
- 感想を言ったり、分からなかったことやもっと知りたいことを質問したりする。



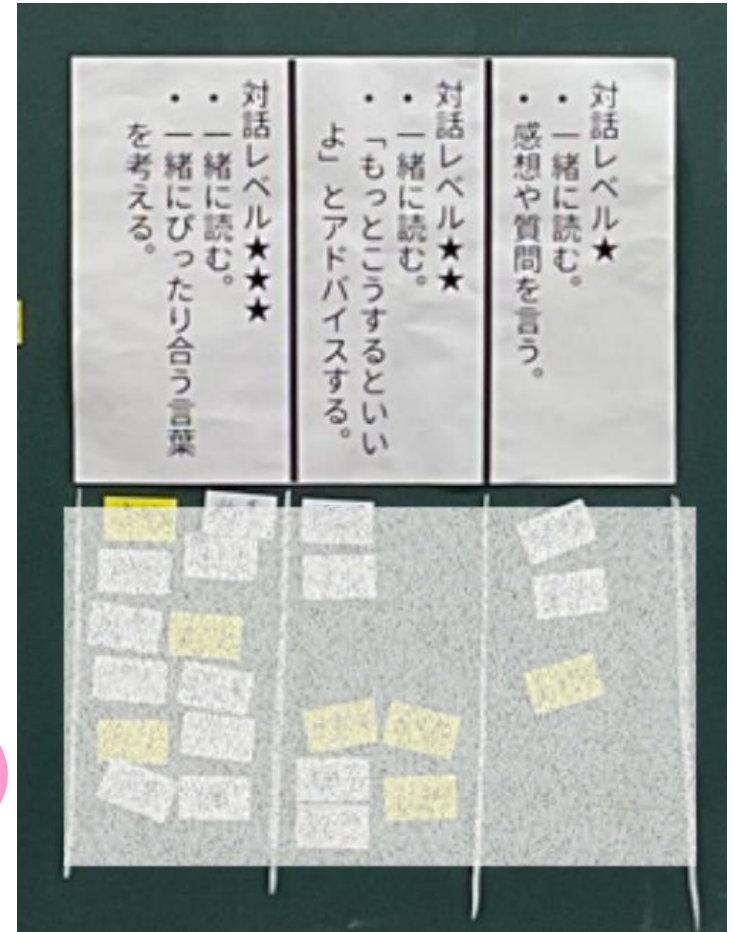
## ■(2)②対話を通して考え続けるための 指導・援助の工夫

### 対話のレベルを示す

第3時以降、どんな対話が出来たか自分で振り返り、  
黒板に名前磁石を貼らせた。



「ペアでこんな対話したい。」  
という意欲につながり、  
よりよい物語をつくるために  
ペア交流をする土台ができた！

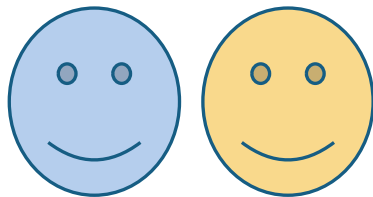


## ■(2)②対話を通して考え続けるための 指導・援助の工夫

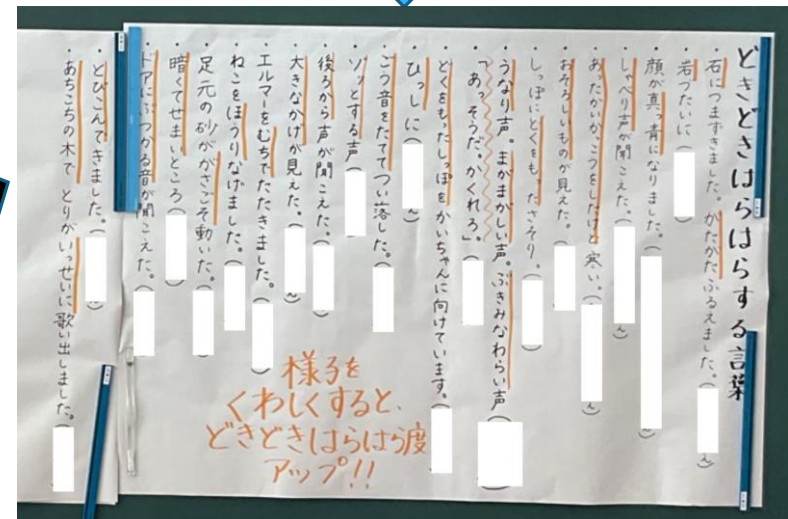
### 対話を通して 考え続けるための掲示物

並行読書で見つけた  
「どきどきはらはらさせる」言葉を  
毎時間の終末にプリントに書き溜め、  
教師が模造紙に  
転記し掲示していった。

対話レベル3の姿



| いろいろなお話の中から、どきどきはらはらする言葉 | 見つけた本         |
|--------------------------|---------------|
| (れい) うなり声が聞こえた           | モチモチの木        |
| あしのりけから こていひしとましん        | モリのア<br>きやんそる |
| 二のりきを見てあきれたようにいひし        | モリ<br>アきやんそる  |
| 甘い声                      | 自分            |
| おそれかからてきました。             | 自分            |



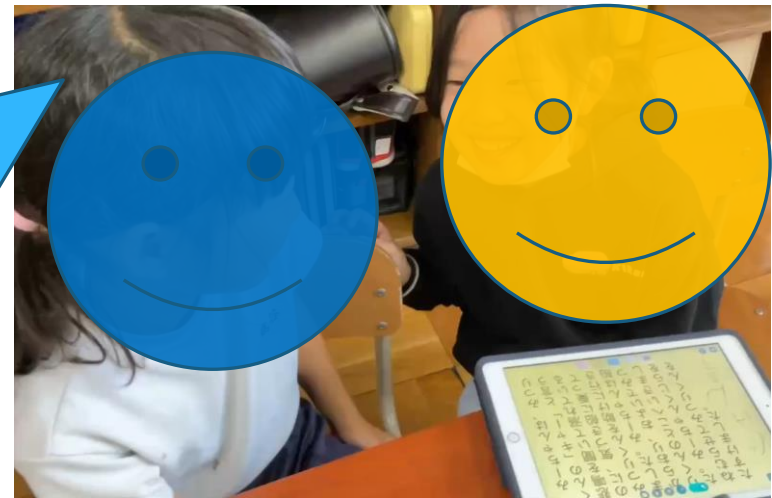
## ■(2)②対話を通して考え続けるための 指導・援助の工夫

### 対話をしやすい環境づくり

活発な対話で、それぞれが学びを深められるよう、  
意図的にペアを仕組んだ。

#### 対話レベル1のすがた

- 一緒に読む。
- ペアの子が「この意味が分からない」と感想を伝える。



Bさん

Aさん



Aさんのこの時の文章

みーちゃんは、くじらをねむらせて、みつりくんをたすけました。

(身振りを加えながら) 木であちょーってたたいてねむらせた。

なんかアドバイスない？

ここ

(みーちゃんは、くじらをねむらせて、みつりくんをたすけました)  
が意味分かん。

Aさんの書き直した文章

みーちゃんは船からおり、およいでみつりくんのところへいきました。  
リュックに入っていたマッチ棒をクジラに投げて倒しました。

## ■成果と課題

- 「読み手をどきどきはらはらせるぼうけん物語を作る」という言語活動により、どの児童も**目的を明確にして書き進めることができた。**
- 導入で、教師のモデル文やまとめを示すことによって、本時のゴールが明確になり、どの児童も**見通しをもちながら学習を進めることができた。**
- 対話活動で考え続けることができたペアとそうでないペアがあった。



# ■今後の授業改善の方向

現在の3年生では・・・

- ・書くときの基礎となる語彙力が高まるよう、様々な教科で辞書を引く。
- ・ペアでの対話の機会を増やし、一緒に考えると考えが深まるという実感を持たせる。



- ・書く力を高めるために有効な対話とは何か。
- ・より活発な対話となるような有効な手立ては何か。

この点について、今後も研究を重ねていきたい。

**ご清聴ありがとうございました。**